

令和7年度:特別養護老人ホーム瑞寿苑事業報告書

1. 利用者処遇の充実

ユニットケアの基本理念である「その人らしさ」と「暮らしの継続」を念頭に、ユニットケアの3つの要素であるハード(環境)、ソフト(暮らしのサポート)、システム(施設仕組みづくり)について基本を学んだり、ユニットリーダー研修実地研修施設への施設見学を行い、多くの刺激や新たな理解を深めることで入居者へのケアの質の向上に繋げることができた。またコロナ禍以降開催できていなかった施設内での夏祭りを開催することができ、入居者・御家族・職員間での交流を図る機会となった。看取りケアにおいては、最期までその人らしさを大切に、身体的・精神的苦痛をできるだけ緩和し、人としての尊厳に十分に配慮しながら寄り添ったケアに努めた。

2. 地域交流

地域における福祉拠点の一つとして、介護福祉士や介護職員初任者研修を資格取得のための実習生の受け入れにおいて、その都度新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、受け入れを行った。また地域のボランティアの受け入れにおいても感染症予防観点に伴い、少人数での参加を促し、以前のように受け入れを再開することができた。その他に地域の方々を対象として、車椅子や屋外用段差解消スロープなど、介護備品の貸し出しを行った。

3. 職員の質の向上

新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、積極的に外部研修やweb研修への参加の機会を設けた。また専門的な知識や技術の処遇向上を図るため、外部講師を招いて少人数での勉強会の機会を定期的に設け、接遇マナーや事故防止、身体拘束廃止・虐待防止など、多様化するニーズに的確に対応できるよう人材育成に努めた。また今年度は法人理念への理解を深め、職員間で共通認識を持ちながら、理念に基づいたケアや支援の実践に繋げることを目的として、初めて理念浸透研修を実施した。その他に職員の職場定着を目指し、職員一人一人の意見や想いが反映されるよう、定期的に職員面談を実施した。

4. 安全な生活環境の提供

入居者の安全確保において、全職員が迅速に対応できるよう、防災訓練に加え、事業継続計画(BCP)地震・災害編を含めた緊急連絡網運用訓練や非常食提供訓練、初動時の震災訓練を実施した。また新型コロナウイルス対応における感染症リスクの特徴を踏まえ、対応方針や施設内での感染対策(ゾーニング)について、事業継続計画(BCP)感染症編に沿って勉強会や感染対策(ゾーニング)を含むシミュレーション訓練の実施、マニュアルの見直しを行った。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：和 ～なごみ～）

1. 入居者処遇について

アセスメントシートの充実及び24時間シートの活用を目標に取り組んだが、職員間での情報共有が十分ではない部分があった。次年度では24時間シートの目的を再認識し、ユニット全体で情報共有を行いながら、入居者一人ひとりの生活を支えられるよう努めていく。

2. ユニットの環境について

ユニットの設えについては改善が行えた一年であった。和ユニットに入居される方の要介護度の平均値が下がり、入居者の状態に合わせ、テレビの前にくつろぎの場としてソファを設置したり、テーブルの配置や座席を入居者同士の相性をもとに細かく検討したり、これまでとは違った視点の考えも必要となった。今後も入居者それぞれの希望や生活スタイルに合わせた環境整備を進めていく。

入浴時の季節湯は継続して実施し、四季を肌で感じていただく機会となった。内容をリビングや廊下に掲示することで、入浴の楽しみづくりにもつなげることができた。

誕生日のバースデーパーボード作成では、入居者に喜んでいただけた一方で、職員負担が大きい課題もあった。今後は業務内容を見直し、無理なく継続できる方法を検討していく。

3. その他

年間行事として様々な企画を予定していたが、感染症の流行も重なり、全て実現とはならなかった。しかし、今年度はご家族も一緒に参加していただく機会（父の日会、お花見等）を持つことができた。コロナ渦で減少していたご家族との関りを再び深めることができ、職員にとっても学びや成長につながる一年となった。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：笑 ～えみ～）

1. 入居者処遇について

自分らしく生活出来る様、常に入居者や他職種間で情報共有・意思疎通を行いながら入居者に合わせたケアを心掛けて対応することができた。また各自担当職員が個々にヒヤリングシートを用いて聞き取りを行い、内容を落とし込み24時間シートを作り込むことができた。反省点としては、行事の実施が少ない状況であったため、次年度は入居者に楽しみを感じていただけるよう、行事の充実に努める。

2. ユニットの環境について

季節を感じられるように生花や小物を使用したり、観葉植物やソファの位置、浴室の暖簾など入居者が家庭的な雰囲気を大切に穏やかに過ごすことができるようリビングの設えを行った。感染症予防に取り組みとして、コロナウイルスやインフルエンザなどに感染予防に努めた。

3. その他

年間行事においては、事業計画に沿って一部実施することができていなかったため、次年度は計画性に基づいた取り組みが実施できるよう努めていく。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：幸 ～さち～）

1. 入居者処遇について

入居者一人ひとりの生活リズムや希望を把握し、自分で選択・決定できる機会を大切に
した支援に努めた。またこれまでの生活に馴染みのある行事を取り入れ、安心して生活で
きる環境づくりを行った。また日々のバイタル測定や心身状態の確認を行い、体調変化の
早期発見にも努めた。行事や外出、ユニット調理などでは入居者の意見を取り入れられる
よう、普段からコミュニケーションを図り、ユニット会議等で共有に努めた。

2. ユニットの環境について

居室には馴染みのある家具や写真を配置し、リビングには季節の生花を飾るなど、四季
を感じながら家庭的で落ち着いて過ごせる環境づくりに努めた。また換気や手指消毒など、
感染症対策を継続し、研修や会議を通して職員の知識向上にも取り組んだ。今後も設備や
環境整備を見直しながら、入居者・職員ともに過ごしやすい環境づくりに努めていく。

3. その他

リハビリやレクリエーション、生活パターンについて入居者の意向を確認しながら本人
のペースで生活ができるよう支援を行った。次年度でもユニット職員だけでなく、他部署
とも連携を図り、「このユニットに入居してよかった」と感じていただける支援を継続して
いく。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：愛 ～めぐみ～）

1. 入居者処遇について

アセスメントシートや24時間シートを活用し、入居者一人一人のニーズに合わせた支援を行えた。また、介護基準書を軸にユニット職員で統一したケアの提供ができた。新人職員や実習生が対応する際にも、各種シートを活用した説明を行うことができた。今後も統一したケアの提供を行い、入居者をご自分のペースで生活できる暮らしの支援に努める。

2. ユニットの環境について

感染症の予防観点に努め、住み慣れた馴染みのある場所や季節感を感じられる場所への外出支援を計画し、入居者に楽しんでいただくことができた。ユニット内では、入居者の意見を取り入れながら植物や生き物の飼育などを行った。居室は入居者が安心して過ごすことができるよう、ご自宅で使用されていた物などをできる限り持ってきていただけるようご家族にお伝えし、協力していただくことができた。次年度でも入居者をご自宅のように安心して生活していただけるような支援に努める。

3. その他

行事に関するご希望や思いについては、入居者との何気ないコミュニケーションを大切にしながら、日頃から聞き取りを行ったり、その方の表情や様子からも意思を汲み取れるよう、日頃から関わりを深めていく。また職員都合で業務の進めることがないよう、職員同士で声を掛け合い、注意し合えるユニットづくりに努めていく。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：希 ～のぞみ～）

1. 入居者処遇について

入居者一人ひとりの思いや希望に寄り添ったケアに努めた。自ら希望を伝えることが難しい入居者に対しても、ご家族との面会時に好きな物や生活歴を伺い、ユニット調理などを通して希望に沿った支援を行うことができた。また、希望を伝えることができる入居者については継続して聞き取りを行い、24 時間シートを活用しながら統一したケアの提供に努めていく。

2. ユニットの環境について

季節に合わせてユニット内の設えを工夫し、入居者が季節を感じられる環境づくりを行った。生花や野菜の栽培を通して季節感を楽しんでもいただき、育てた野菜を食事時に提供することで喜ばれる場面も見られた。一方で、観葉植物や生花の水やりを継続して一緒に行うことが十分にできなかったため、次年度の課題として取り組んでいく。また日々のモップ掛けやテーブルの消毒を継続し、清潔な環境整備に努めた。2 月には入居者・職員ともにインフルエンザの集団感染が発生したため、今後も感染予防策を徹底し、安心して過ごせる環境づくりに努めていく。

3. その他

ユニット調理は継続して実施したが、経管栄養の入居者は参加が難しい場面があり、支援内容に差が生じたことが反省点として挙げられる。次年度は、施設周辺の散歩や買い物、季節の花を見に行く外出など、車を使用しなくても実施できる活動を増やし、入居者が楽しめる機会を広げていく。また、季節ごとのイベントも企画し、入居者一人ひとりの生活の充実につながるよう、ユニット職員や他部署と連携を図りながら取り組んでいく。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：優 ～ゆう～）

1. 入居者処遇について

ニーズに沿ったサービスの提供を心掛け、入居者の意思を尊重しながら職員一同で支援に努めることができていたが、一部では職員都合による支援もあった。引き続き、入居者が安心、安全に笑顔で過ごせる対応を心掛けて、日々の支援に努めていく。またユニットケアへの取り組みにおいては、理想的な内容には及んでいないため、引き続き職員一同で理解を深めながらしっかりとした根拠が説明できるように努めていく。

2. ユニットの環境について

ユニット内の設えにおいては、季節を感じられるよう職員一人ひとりが意識しながら対応することができた。また、リビング内には季節の生花を増やしたり、ホールや廊下に動物や風景写真を飾ることでより家庭的な和やかな雰囲気を作ることができた。

3. その他

年間行事については、事業計画に沿って入居者の皆様に楽しんでもいただけたが、ユニット調理や外出等の頻度が少なかったため、次年度は、より計画性をもって入居者に楽しく充実した行事を提供できるよう努めていく。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：寿 ～ことぶき～）

1. 入居者処遇について

日々、入居者との会話やコミュニケーションを通して「今、入居者は何を求めているのか」といったニーズを導き出し、日常の介護に活かせるように努めた。しかしアセスメントは十分に取れているのに24時間シート等に上手く落とし込めておらず、職員全体での理解ができていないことがしばしばあったように感じた。次年度においては、アセスメントシートや24時間シート等の作成をユニット職員全体で行い、全職員間での意識統一に努める。

2. ユニットの環境について

「家庭に近いユニットとは何か」を入居者やユニット職員とともに考える1年となった。雑誌や本の購入、植物を実際に入居者と一緒に買いに行くといった取り組みを行ない、皆でユニットを作るような工夫も行った。しかし、座席等の配置が困難で思ったような設えができない場合が何度もあった。工夫を重ね、現在の状態であるが、まだまだ改善の余地があり、入居者のご意見も把握しきれていない。今後もさらに入居者の過ごしやすい環境を目指せるよう努めていく。

3. その他

日常の業務に追われる中で、入居者一人ひとりの希望に沿った介護を十分に実践することが難しい状況であった。ユニットの現状に合わせた支援方法の検討や職員間での情報共有・話し合いが不足していたことで、業務負担が偏り、職員の疲弊につながる場面もみられた。また現状維持を優先する傾向が強くなり、ユニット全体で課題を整理し、改善へつなげる取り組みが十分でなかった。そのため、介護に対する考え方や支援方法に差が生じ、職員間で足並みをそろえることが難しい状況にあった。

今後はユニット職員全員で現状や課題を共有し、定期的な話し合いを行いながら、統一した支援を実践できる体制づくりに努めていく。また職員同士が協力し合い、入居者が安心して生活できる環境づくりにつなげていく。

令和7年度 事業報告書（ユニット名：福 ～ふく～）

1. 入居者処遇について

職員の入れ替わりがあり、入居者との馴染みの関係を構築するのに時間がかかってしまったが、入居者一人ひとりに聞き取りを行い、個人のやりたいことなど要望を確認しながら、実際にユニットの行事を企画して実施することができた。しかし、食事前の手指消毒について、徹底が不十分な場面が見られたため、職員への再周知および声掛けを継続して実施していく。

2. ユニットの環境について

ユニットの設えについては個人の生活に合った場所を考えてテーブル配置をし、仕切りや観葉植物などでプライバシーを考慮することができた。

環境整備については、定期的に清潔を保つために各所清掃を業務の中に取り入れた。また個人のタンスの中も数年使用していないものや劣化しているものは職員で手分けして整理を行った。

3. その他

御家族と一緒に動物園や初詣など外出する機会を設け、入居者に楽しみや安心感を感じていただく機会となった。次年度も継続して取り組みを行い、より良い支援につなげていく。

利用者（入居・退去）状況

事業所：特別養護老人ホーム瑞寿苑

定 員：８０名

期 間：令和７年４月１日～令和８年３月３１日

	退 居	新規入居	末日人数	備 考
４月	２名	２名	７９名	※施設内にて逝去 １名 ※医療機関にて逝去 １名
５月	２名	３名	８０名	※施設内にて逝去 ２名
６月	２名	２名	８０名	※施設内にて逝去 １名（看取り） ※医療機関にて逝去 １名
７月	２名	１名	７９名	※施設内にて逝去 ２名
８月	４名	３名	７８名	※施設内にて逝去 ３名（看取り１名） ※医療機関へ長期入院 １名
９月	０名	２名	８０名	
１０月	２名	１名	７９名	※施設内にて逝去 ２名（看取り）
１１月	０名	０名	７９名	
１２月	４名	３名	７８名	※施設内にて逝去 １名 ※医療機関へ長期入院 ２名、逝去１名
１月	１名	２名	７９名	※医療機関へ長期入院 １名
２月	３名	２名	７８名	※施設内にて逝去 ３名（看取り）
３月	０名	２名	８０名	
計	２２名	２３名		

【要介護度認定一覧】（令和８年３月末日 現在）

要介護度 １	１	名	（内訳 男性 ー 名、女性 １ 名）
要介護度 ２	ー	名	（内訳 男性 ー 名、女性 ー 名）
要介護度 ３	２０	名	（内訳 男性 ７ 名、女性 １３ 名）
要介護度 ４	３８	名	（内訳 男性 ８ 名、女性 ３０ 名）
要介護度 ５	２１	名	（内訳 男性 ７ 名、女性 １４ 名）
計	８０	名	（内訳 男性 ２２ 名、女性 ５８ 名）

【 平均介護度 ３.９ 】

令和7年度 実習生・ボランティア関係 実績一覧

	実習生・ボランティア	実施日	内 容	ボランティア	参加者
				実習生人数	
R7 4 月	瑞穂野そば打ちクラブ	16 日	そば打ち実演	5 名	20 名
	ケーナ・尺八演奏	24 日	ケーナ、尺八の演奏	2 名	25 名
5 月	ボランティア 杉本様	19 日	脳トレ・体操・ゲーム	1 名	12 名
	SGC 健 ギタークラブ	21 日	ギター演奏、歌謡	9 名	25 名
6 月	ケーナ・尺八演奏	16 日	ケーナ、尺八の演奏	2 名	25 名
	瑞穂野そば打ちクラブ	18 日	そば打ち実演	4 名	20 名
	クラフトクラブ	26 日	折り紙等を使用した創作活動	3 名	4 名
7 月	クラフトクラブ	31 日	折り紙等を使用した創作活動	2 名	5 名
8 月	(株)ユーユーワールド	7 日、8 日	初任者研修 施設サービス実習	3 名	
	和の会	8 日	歌、踊り、舞踊	7 名	20 名
	ケーナ・尺八演奏	18 日	ケーナ、尺八の演奏	2 名	25 名
	瑞穂野そば打ちクラブ	20 日	そば打ち実演	4 名	20 名
	クラフトクラブ	21 日	折り紙等を使用した創作活動	2 名	4 名
9 月	コットンオハナ	1 日	ギター、ウクレレ演奏、コーラス	8 名	25 名
	クラフトクラブ	18 日	折り紙等を使用した創作活動	2 名	4 名
	SGC 健 ギタークラブ	24 日	ギター演奏、歌謡	9 名	25 名
	さくら医療福祉専門学校	29 日～ 10/21	特養での介護現場実習（介護実習Ⅱ-3）	2 名	
	株）ユーユーワールド	1～30 日	初任者研修 施設サービス実習	3 名	
	さくら医療福祉専門学校	9/29～ 10/21	特養での介護現場実習（介護実習Ⅱ-3）	2 名	
	瑞穂野そば打ちクラブ	15 日	そば打ち実演	6 名	20 名
	ケーナ・尺八演奏	21 日	ケーナ、尺八の演奏	2 名	20 名
	クラフトクラブ	23 日	折り紙等を使用した創作活動	3 名	5 名

	実習生・ボランティア	実施日	内 容	ボランティア	参加者
				実習生人数	
11 月	クラフトクラブ	13 日	折り紙等を使用した創作活動	3 名	5 名
	さくら医療福祉専門学校	17～28 日	特養での介護現場実習（介護実習Ⅱ-3）	3 名	
12 月	ボランティア AYA ブラザーズ	9 日	歌、踊り、マジックショー等	7 名	25 名
	ケーナ・尺八演奏	11 日	ケーナ、尺八の演奏	2 名	25 名
	瑞穂野そば打ちクラブ	17 日	そば打ち実演	6 名	20 名
	クラフトクラブ	18 日	折り紙等を使用した創作活動	3 名	5 名
1 月	クラフトクラブ	15 日	折り紙等を使用した創作活動	3 名	5 名
	三味線ボランティア 呉屋様	20 日	沖縄三線の演奏	1 名	25 名
2 月	自治医科大学	3～5 日	地域保健福祉実習	3 名	
	SGC 健 ギタークラブ	12 日	ギター演奏、歌謡	9 名	25 名
	ケーナ・尺八演奏	17 日	ケーナ、尺八の演奏	2 名	25 名
	瑞穂野そば打ちクラブ	18 日	そば打ち実演	6 名	20 名
	クラフトクラブ	19 日	折り紙等を使用した創作活動	3 名	5 名
3 月	クラフトクラブ	19 日	折り紙等を使用した創作活動	3 名	5 名

地 域 関 係 機 関 協 力 状 況

期 間：令和7年4月1日から令和8年3月31日

事業所：特別養護老人ホーム 瑞寿苑

日 時：令和7年7月15日（火）、22日（火）、29日（火）（介護過程Ⅲ）

令和7年8月19日（火）、26日（火）（介護過程Ⅲ）

令和7年9月2日（火）、9日（火）（医療的ケア）

対 象：三幸福祉カレッジ

内 容：介護福祉士実務者研修における会場（地域交流室）を無償にて貸与

受講生：8名